スポーツ実況中継の対照研究

多々良直弘（桜美林大学）

1. はじめに

スポーツ実況中継の重要な目的は，メディアを通してスポーツを視聴する人々に試合に関する適切かつ十分な情報を提供し，視聴者の興味を失わせないことである．これまでにもメディアスポーツ研究の分野においてスポーツの実況中継を分析した研究はあるが，本発表ではサッカーの実況中継をはじめ，オリンピック・パラリンピック競技の日本語，英語，スペイン語など様々な言語による実況中継を比較対照し，各言語の特徴を分析していく．スポーツ実況中継の対照研究が社会言語学や対照研究においてどのような重要性を持つのか，多くの事例をもとに考察していきたい．

2. 文化により異なる実況中継

スポーツの実況中継というジャンルはFerguson (1983)やBeard (1998)が指摘している通り，様々な独特の言語表現が使用されている．しかし近年ではオリンピック・パラリンピックなどの国際大会が世界各地で実況放送されており，同じ試合が通訳や翻訳を介さずにさまざまな言語で放送されているため，各言語で言語化される認知資源や好まれる言語表現，そして参与者間の相互行為の特徴を分析するための非常に良いデータであると言える．

実況中継の参与者たちは，流動的でシナリオのない試合を即興的に描写，解説することが求められる．どの文化でも視聴者が期待する適切な情報を伝達することが実況解説には求められるわけだが，出来事のどの部分を伝えるのか，それをどのように伝えるのかということに関して，各言語文化で違いが見られる．実況中継という制度的談話にも各言語文化の価値観や日常的な言語使用の規範が反映されており，参与者たちは単に情報を視聴者に提供するのではなく，その文化に適した形で談話を構成することが求められているのである．言い換えれば，実況中継の参与者たちは，目の前で起こっている出来事の全てを忠実にことばで描写，再現しているのではなく，ある特定の視点から言語化する認知資源を選択し，ある種の物語を作り上げているのである．日本語と英語による同じ試合の実況中継を比較すると，各言語の好まれる表現方法や相互行為の特徴が明らかになるだけでなく，文化によって注目され，言語化される対象の差異が観察されたり，同じ認知資源が異なる形で解釈されたりすることがあり，そこから各言語の背後にある文化的価値観が浮かび上がってくる．

3. スポーツ実況中継の対照研究

多々良（2017）はスポーツの実況中継という制度的談話において，選手がミスをした場面で英語と日本語の実況中継の参与者たちが出来事のどの部分に注目し言語化するのか，どのように批判を展開するのかということを分析し，両言語の批判のストラテジーを考察している．英語の実況解説では，コメンテーターたちは客観的に選手のミスを描写し，ミスを犯した選手を言及し，厳しい批判を投げかける一方，日本語のアナウンサーや解説者たちは，批判をするのではなく（批判をするだけではなく），ミスをした選手のおかれている状況を描写したり，選手の思考内容を推察し，意図を理解しようとすることを指摘している．

また，英語の実況中継では参与者たちは互いの発話が重ならないようにイントネーションを調整したり，身体的接触などを利用し，話者交替のタイミングを他の参与者に知らせ，それぞれが一人ずつ長いターンで見解を述べる「一度に一人が話す」という特徴がある．一方日本語の実況中継では参与者たちが相槌，同時発話，繰り返しなどを通じて，互いの発言に反応し，見解を確認し合いながら，実況中継を共同構築するという特徴が観察される．

本発表ではオリンピック・パラリンピックで行われる様々な競技の実況中継を日本語，英語，スペイン語など多言語間で比較対照し，各言語の特徴や相互行為の特徴を分析する．スポーツ実況中継の対照研究が社会言語学や対照研究においてどのような重要性を持つのか，その可能性について考察していく．

参考文献

Beard, Adrian (1998). *The language of Sport*. London, New York: Routledge.
Ferguson, Charles A. (1983). Sports Announce Talk: Syntactic aspects of register variation. *Language in Society*, 12, 153-172.
多々良直弘(2017)．メディア報道における批判のディスコース―スポーツ実況中継において日英語話者はどのように批判を展開するのか―社会言語科学，20(1)，71-83.